

会報

# 明石のぼうさい

編集発行/明石防火協会(明石市消防局予防課内)  
〒673-0044 明石市藤江924番地の8  
TEL(078)918-5272 FAX(078)918-5983  
ホームページアドレス: <https://www.akashi-bouka.jp/>



## 令和5年度 防火ポスター展



すばる保育園 4歳  
吉川 衣瑠



錦が丘小学校 4年  
住川 莉久人



望海中学校 2年  
寺田 芽生



花園小学校 4年  
押部 由莉菜



二見北小学校 5年  
住本 紘史



錦浦小学校 2年  
弘内 惺也



防火協会恒例の主催行事として火災予防運動啓発用ポスターの募集を呼び掛けたところ、市内の園児から中学生まで六三七点の応募がありました。審査は、令和五年九月二十七日(水)に行われ、審査員により左記の方々を明石市長賞ほか、各賞に選出されました。

### 令和5年 火災・救急・救助の統計

#### 火災の概要

●前年度の比較(件数)

区分	令和5年	令和4年
建物	28	26
林野	0	0
車両	6	12
船舶	1	0
その他	21	27
合計	56	65

#### 救急の概要

●前年度の比較(出動件数)

区分	令和5年	令和4年
急病	11,482	10,744
一般負傷	2,800	2,745
交通事故	930	865
自損行為	125	133
加害	49	54
労災	131	109
火災	27	26
運動競技	85	66
水難	17	15
自然災害	0	0
転院搬送	1,706	1,458
医師搬送	17	29
その他	419	429
合計	17,788	16,673

#### 救助の概要

●前年度の比較(出動件数)

区分	令和5年	令和4年
火災(建物)	4	4
火災(建物以外)	0	0
交通事故	25	33
水難事故	16	12
風水害等自然事故	0	0
機械による事故	2	0
建物等による事故	182	165
ガス及び酸欠事故	1	0
破裂事故	0	0
その他の事故	216	246
合計	446	460

火災件数は56件で前年の65件から9件減少しました。過去10年間の合計は647件で、1年間の平均は約65件となり、平均より下回りました。火災による死者数は、前年の2名から減少し、0名となりましたが、負傷者は6名で前年の2名から4名増加しました。救急出動件数は、17,788件で前年より1,115件増加しました。事故種別で一番多いのは、急病11,482件、次に一般負傷2,800件、転院搬送1,706件となっています。

### 明石市消防局

## 取り付けていますか? 住宅用火災警報器

大切な家族の暮らしや命を見守る火災警報器。消防法の改正により、設置が義務付けられているんだ。取り付けていないと、とっても危険だよ!

でも、一家に一個ではダメ!

取り付ける場所はここだよ! 付け忘れがないか、確認してね!

取り付けが義務付けられている所(寝室・階段)

取り付けをおすすめする所(台所・全ての居室)

警報器が鳴ったら!

- 火災の時** ビービービー 火事です
  - 火元を確認する。
  - 周りに大声で知らせる。
  - 避難する。
  - 119番通報する。
  - 可能なら初期消火をする。
- 火災ではない時** ビービービー 火事です
  - 火災でないことを確認する。
  - 警報器を止める。
  - 警報器の押しボタンを押すか、引きひもを引く。
  - 室内換気扇で音が停止。
- 電池切れの場合** ビッ 電池切れです
  - 警報器を止める。
  - 警報器の押しボタンを押すか、引きひもを引く。
  - 本体が電池を交換する。
- 機器異常の場合** ビッビッビッ 故障です
  - 警報器を止める。
  - 警報器の押しボタンを押すか、引きひもを引く。
  - 本体を交換する。

新しい火災警報器に交換したら! 本体の側面などに、油性ペンで「設置年月」を記入しましょう。

お宅でも診断してね! 設置場所の確認方法なども掲載しています。おうちの火災警報器を全て診断しましょう!

10年目安 10年たったら、とりカエル。 住宅用火災警報器は、古くなると電子部品の劣化や電池切れなどで、火災を感知しなくなったり、故障しやすくなります。安心・安全のために、定期的に作動をテストし、10年を目安に交換しましょう。

正常に作動するか、定期的にテストしよう!

ボタンを押す、または引きひもを引いて作動確認をしてください。

正常な場合は? 正常をお知らせするメッセージ、または火災警報器が鳴ります。

音が鳴らない場合は? 電池がきちんとセットされているか、ご確認ください。

とりカエルのサイトで音を確認できます!

「交換診断シート」で、わが家の火災警報器を診断しよう!

火災警報器の状態を診断する「住宅用火災警報器 交換診断シート」を作成しています。交換が必要かどうか、簡単にチェックできます。とりカエルのホームページからダウンロードできますので、ぜひご利用ください。

お宅でも診断してね! 設置場所の確認方法なども掲載しています。おうちの火災警報器を全て診断しましょう!

新しい火災警報器に交換したら! 本体の側面などに、油性ペンで「設置年月」を記入しましょう。

これから10年間、また安心を見守るよ!

設置年月 2022年1月

取説説明書は、大切に保管してください。

△注意ください

- 火災警報器の種類によって、強い地震の影響を受け、設置に付随している取説説明書が破損することがあります。
- 地震や落下、作動確認、誤作動の作動となり、設置や落下などの危険があります。設置した居室を確保して、作業を行ってください。
- 壁の出入り口などを利用する際、警報器が壊れることがあります。火災警報器を壁に固定する際は、必ず取説説明書に記載されている取付方法を厳密に守ってください。

お問い合わせ

一般社団法人 日本火災報知機工業会



●防災講話



●消火訓練(粉末消火器)



●誘導灯を用いた避難訓練



●消火訓練(屋外消火栓設備)



●スプリンクラー設備説明



●自動火災報知設備説明

令和五年十月十七日(火)から十九日(木)までの三日間、明石市消防局において、事業所における消防用設備の知識や技法などを習得してもらうことを目的として、市内の事業所を対象とした自衛消防隊訓練研修会を開催しました。  
当日は、明石防火協会に加入している二十七事業所から一七五名が参加し、消防用設備の取扱いや防火防災に関する知識を学びました。

### 自衛消防隊訓練研修会を実施

### 第五十一回消防救助技術近畿地区指導会に向けての激励



令和五年七月十二日(水)、明石市消防局訓練場において、第五十一回消防救助技術近畿地区指導会の消防局長査閲が行なわれました。  
消防局長の査閲ののち、明石防火協会長から出場する隊員に向けて激励のお言葉と激励品の贈呈が行なわれました。  
令和五年七月二十二日に実施された第五十一回消防救助技術近畿地区指導会では、大阪府二十七消防本部及び兵庫県下



二十四消防本部から選抜された八百人を超える隊員が参加しました。  
明石市消防局にあつては、四種目一六名の隊員が大会参加し、ロープブリッジ救出訓練に参加した一チームが、近畿地区二位の優秀な成績を収め、令和五年八月二十五日、北海道札幌市で実施された「全国救助技術大会」に近畿地区代表として出場しました。

### 指導会に向けての激励



これまで部会ごとのニーズ等に応じ、計画実施しておりました部会別視察研修ですが、本年度につきましては、令和六年元日に発生した能登を震源とする地震の記憶が新しい中、防災に対する意識を五部会全体で向上させることを目的として、五部会合同視察研修を令和六年三月七日(木)に実施しました。  
今回の視察研修先は、大阪府にある「あべのタスカル大阪市立阿倍野防災センター」です。  
あべのタスカル大阪市立阿倍野防災センターは、二〇一九年にリニューアルされた施設であり、近年発生した災害の教訓や南海トラフ巨大地震への備えなどについて学べる



はしご、消火器ボックスなどの製造もしています。研修中の講話では、足の不自由な元パラリンピアンの中野氏が、災害時に逃げられない恐怖について語られていました。今回の避難体験では、車椅子に乗ったまま、降下できるUDエスケープWithで避難体験を実施しました。また他の、ハッチ式避難はしごや、救助袋も設置されていてそれぞれ避難体験をすることができました。

施設となっています。以前から設置されていた震度7を体験出来る起震装置や消火コーナーに加え、高さ6mのスクリーンで災害の恐ろしさを体験する「タスカルシアター」や、津波により建物が浸水していく様子をプロジェクションマッピングにより実物大で表現するなど、臨場感あふれる体験をすることができました。

### 令和五年度五部会合同視察研修

### 令和五年度 明石防火協会視察研修



明石防火協会視察研修が令和五年七月十四日(金)に実施されました。  
今までは一泊二日で行っていたところですが、コロナが明けて初めての視察研修ということで、日帰りの研修を計画し、実施しました。  
今回の視察研修先は、滋賀県にあるナカ工業株式会社滋賀工場です。  
ナカ工業株式会社は、一九三二年に創業された、建材製品のメーカーですが、避難



はしご、消火器ボックスなどの製造もしています。研修中の講話では、足の不自由な元パラリンピアンの中野氏が、災害時に逃げられない恐怖について語られていました。今回の避難体験では、車椅子に乗ったまま、降下できるUDエスケープWithで避難体験を実施しました。また他の、ハッチ式避難はしごや、救助袋も設置されていてそれぞれ避難体験をすることができました。